

浜岡原子力発電所 地下構造特性調査(追加調査)について(続報)
ーボーリング調査に関する計画変更ー

平成 21 年 11 月 20 日

当社は、平成21年8月11日に発生した駿河湾の地震の際、5号機において他号機に比べ大きな地震記録が観測されたことを踏まえ、現在、地震観測記録の分析および地下構造特性調査の追加調査(地震観測、陸域・海域弾性波探査およびボーリング調査^{*1})を実施しています。

当社は、これまでに実施した駿河湾の地震の本震・余震および平成21年5月25日に発生した静岡県西部の地震における観測記録の分析を踏まえ、このたび、ボーリング調査の計画について、駿河湾の地震での地震波の到来方向にあたる発電所東側での調査を充実することとしましたので、お知らせいたします。

変更後の計画では、発電所東側の敷地内および敷地周辺で、さらにボーリング調査を実施することとし、6号機に係る概略地質調査^{*2}として行ったボーリング孔^{*3}も使用していきます。

今回のボーリング調査の計画変更による、平成21年度下期までとしていた追加調査全体の終了予定時期についての変更はありません。

なお、6号機に係る概略地質調査については、11月末にも全て終える見通しです。

| | |
|-----|--|
| 変更前 | 敷地内:ボーリング3本(深さ約1,500m)。これらを利用してPS検層等を実施。 敷地近傍:6号機概略地質調査用ボーリング孔1本を利用してPS検層を実施。 |
|-----|--|

| | |
|-----|--|
| 変更後 | <p>【変更前と同じ】</p> <p>敷地内:ボーリング3本(深さ約1,500m)。これらを利用してPS検層等を実施。 敷地近傍:6号機概略地質調査用ボーリング孔1本を利用してPS検層を実施。</p> <p>【今回追加分】</p> <p>敷地内:6号機概略地質調査用ボーリング孔を延伸したボーリング2本(深さ約350m)。 敷地近傍:ボーリング1本(深さ約350m)および6号機概略地質調査用ボーリング孔を延伸したボーリング3本(深さ約350m)。</p> |
|-----|--|

* 調査箇所は、調査の進捗や関係各所との調整等により変更となる場合があります。

<これまでにお知らせした内容>

当社は、平成20年9月から浜岡原子力発電所にかかわる地下構造特性調査を実施していましたが、平成21年8月11日の駿河湾の地震で、5号機において他号機に比べ大きな地震記録が観測されたことを踏まえ、追加調査を実施することとし、調査項目のうちの地震観測については平成21年9月15日に開始しました。

(平成21年9月15日お知らせ済み)

地下構造特性調査(追加調査)のうち、陸域・海域弾性波探査については、平成21年10月10日に、ボーリング調査については、平成21年10月12日に開始しました。

(平成21年10月13日お知らせ済み)

※1 ボーリング調査では、地盤に孔をあけ(ボーリング)、地盤を構成する岩石などを観察して地質の状況を調査します。さらに、このボーリング孔を利用して、PS検層等を実施し、地下構造特性を確認することもあります。PS検層では、地盤の弾性波に関する速度測定方法のことで、ボーリング孔内に振動を検知する受振器を設置し、地上においた油圧インパクトと呼ばれる起振装置等により弾性波(P波・S波)を発生させ、孔内の受振器で測定します。これにより、地盤内を伝播する弾性波の深さ方向の速度分布を確認します。

※2 6号機に係る概略地質調査はボーリング調査です。

(6号機に係る概略地質調査については[こちら](#))

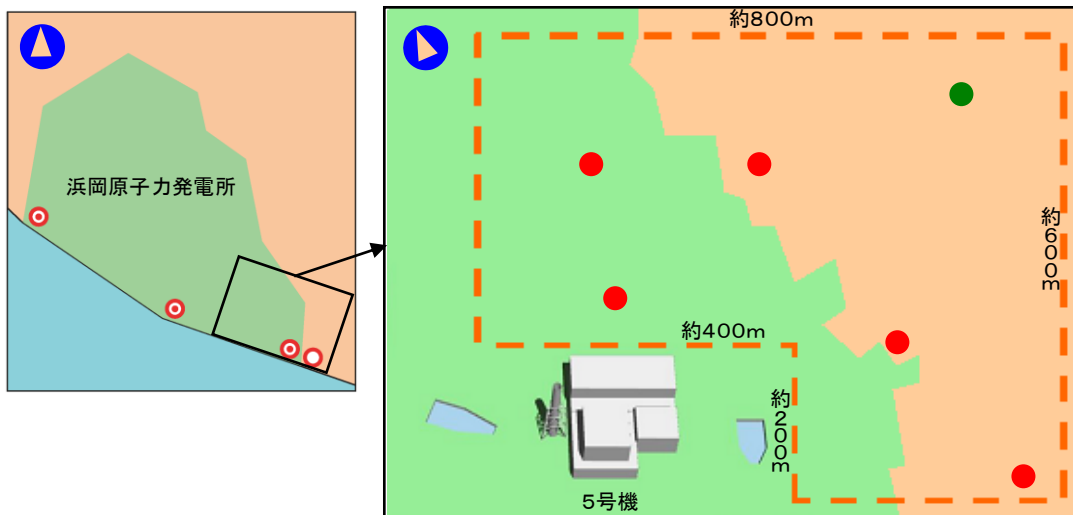
※3 6号機概略地質調査用ボーリング孔の延伸にあたっては槽等のボーリング施設を使用します。

以 上

ボーリング調査の位置(計画変更後)

(凡例)

- 6号機概略地質調査のボーリングを延伸したボーリング調査位置
- ボーリング調査位置(深さ:約350m)
- ◎ ボーリング調査位置(深さ:約1,500m)
- 6号機概略地質調査のボーリング孔を利用したPS検層位置
- ┌──┐ 6号機概略地質調査の調査範囲



* 調査箇所は、調査の進捗や関係各所との調整等により変更となる場合があります。